

# 令和6年12月三木市教育委員会（定例会）会議録

## 1 開催日程

- (1) 開 会 令和6年12月20日（金）午後2時  
(2) 閉 会 令和6年12月20日（金）午後4時15分

## 2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

## 3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について  
第 2 会議録の承認について  
第 3 会議の公開・非公開の決定について  
第 4 協議事項17 三木市教育委員会奨学金制度の見直し及び三  
木市教育委員会奨学規則の改正の概要について  
第 5 協議事項18 令和7年度の予算編成に係る教育予算について  
第 6 報 告 事 項 三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の  
決定について  
第 7 報 告 事 項 三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の  
決定について  
第 8 報 告 事 項 三木市指定文化財の指定について  
第 9 報 告 事 項 幼保一体化計画の見直しについて  
第10 報 告 事 項 各課（室）の所管事項について  
第11 その他  
第12 次回の定例会の開催日程について

## 4 出席者

教 育 長	大 北	由 美
委 員	石 井	ひろ美
委 員	梶	正 義
委 員	稲 見	秀 行
委 員	西 岡	愛

## 5 欠席者 なし

## 6 事務局出席者

教育総務部長	森田	眞規
教育振興部長	鍋島	健一
教育総務課長	田中	栄一
教育施設課長	荒田	知宏
生涯学習課長	河端	康
図書館長	伊藤	真紀
文化・スポーツ課長	手島	三知子
学校教育課長	山口	正明
教育センター所長	計倉	康和
小中一貫教育推進室長	武内	克朗
教育・保育課長	仲谷	淳
教育総務課課長補佐	本岡	忠明
教育総務課係長	三觜	牧恵

7 傍聴者 なし

\*\*\*\*\*

開 会

教育長が、令和6年12月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

\*\*\*\*\*

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、石井委員及び梶委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和6年11月定例会（11月15日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の公開・非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、協議事項17「三木市教育委員会奨学金制度の見直し及び三木市教育委員会奨学規則の改正の概要について」及び協議事項18「令和7年度予算編成に係る教育予算について」はそれぞれ意思形成過程にあるもので、公にすることにより不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあることから、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、非公開で審議することについて同意された。

日程第6 報告事項 三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の決定について

○山口学校教育課長が次のように説明した。

三木市教育委員会顕彰規則第4条の規定に基づき、三木市教育委員会被顕彰者を決定したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第2項第4号の規定により報告する。

三樹小学校創立150周年記念事業実行委員会から子どもたちの憩いの広場、583万円相当の寄附を受けた。子どもたちが集まる広場として活用してほしいとの意向である。感謝状はおって贈呈する。

日程第7 報告事項 三木市教育委員会顕彰規則に基づく被顕彰者の決定について

○山口学校教育課長が次のように説明した。

三木市教育委員会顕彰規則第4条の規定に基づき、三木市教育委員会被顕彰者を決定したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育長への委任等に関する規則第2条第2項第4号の規定により報告する。

毎年のことであるが、極東開発工業株式会社から市内の小学校の5年生に、総額28万円相当の教育冊子「はたらく自動車ドリル」の寄附を受けた。主に、社会科の学習に役立ててほしいとの意向である。感謝状はおって贈呈する。

日程第8 報告事項 三木市指定文化財の指定について

○手島文化・スポーツ課長が次のように説明した。

三木市文化財保護条例第6条第1項の規定に基づき、三木市指定文化財に指定したので、三木市教育委員会の権限に属する事務の一部の教育

長への委任等に関する規則第2条第2項第7号の規定により報告する。

文化財の名称は、「六社(ろくしゃ)神社(じんじゃ)屋(や)台(たい)の旧(きゅう)水(みず)引幕(ひきまく)・高欄(こうらん)掛(が)け・布(ふ)団(とん)締(じ)め」で、種別は有形民俗文化財、所有者は三木市、所在地はみき歴史資料館である。

文化財の概要は、細川町中里の六社神社の旧屋台用具で、先代水引幕1点、先々代高欄掛け4点、先代布団締めの一式である。水引幕と高欄掛けは慶応3年の製作で、布団締めは同時期又はそれに近い時期のものと考えられ、その技法から江戸時代末から明治時代にかけて活躍した縫師の岩田虎市の作品とみられる。

指定の理由は、江戸時代末頃の水引幕、高欄掛け、布団締めがそろっていた希有な例であること、修復箇所が少なく製作時の姿をよくとどめており、播州屋台の当時の刺繍技法を知る上で貴重な資料であるためである。

先日、同文化財を見た際は、複雑な刺繍が施されており、素晴らしい技術であると感じた。

担当者の話によると、屋台の飾りは修理して使われるため、ここまで修理されずにきれいな状態のものは珍しいとのことである。また、収納木箱により製作年代や世話人などが特定できるところが貴重であるため、収納木箱も「附けたり指定」として併せて指定した。

(大北教育長) この文化財はみき歴史資料館で随時見られるのか説明されたい。

(手島文化・スポーツ課長) 普段見ることはできないが、見られる機会をつくる予定である。

#### 日程第9 報告事項 幼保一体化計画の見直しについて

○仲谷教育・保育課長が次のように説明した。

9月20日に開催された教育委員会9月定例会において協議した幼保一体化計画の見直しについては、みきっ子未来応援協議会の就学前教育・保育部会及び全体会並びに部長会並びに総務文教常任委員会において協議及び報告を行い、同計画の見直しをしないことに対する意見等が一切なかったため、予定どおり同計画の見直しをしないこととする。

市民には、広報みき2月号、記者発表及びホームページで公表し、周

知することとする。

(石井委員) 私は以前にみきっ子未来応援協議会の委員に就任しており、その際はさまざまな意見が出ていた。今回見込みがきちんと想定内であったということに安堵した。

子どもの減少度合いについては、当初の見込みと同程度であったのか教えていただきたい。

(仲谷教育・保育課長) 令和3年度に見込んだ人口推計よりも若干減少している。1号認定児の就園率については、令和3年度が約20%であったところ、本年度では12%になっており、公立幼稚園のほか、民間認定こども園でも1号認定児の定員に空きが出ている状況である。

#### 日程第10 報告事項 各課(室)の所管事項について

##### (1) 教育施設課報告事項

○荒田教育施設課長が次のように報告した。

三木市給食調理業務委託業者選定プロポーザルヒアリングを11月22日及び11月26日に行い、審査の結果、平田小学校給食調理場及び緑が丘東小学校給食調理場の両給食調理場ともシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社を委託契約候補業者に決定した。平田小学校については継続委託であり、緑が丘東小学校については新たな委託先であるが、同社は平田小学校を含め市内他校でも給食調理業務の実績があるため問題ないと考えている。今後も学校給食の安全安心な提供と安定した供給に努める。

##### (2) 生涯学習課報告事項

○河端生涯学習課長が次のように報告した。

令和6年度三木市二十歳の祝典を1月12日に文化会館で開催する。本年度の対象者は4月1日時点で703人であり、500人程度の参加を見込んでいる。

公民館のWi-Fi接続を12月6日に開始した。メールアドレスを登録する必要があるため、子どもたちのタブレットは接続できていないが、メールアドレスが分かれば公民館職員が接続をサポートする。

(稲見委員) フリーWi-Fiは、通常は施設のIDとパスワードを入力すればつながる。メールアドレスを登録することが子どもや高齢者にとって難しいという話を聞いたが、登録を必要とした理由を教えてください。

(河端生涯学習課長) 公民館にフリーWi-Fiを導入するに当たりデジタル推進課と協議したところ、セキュリティの観点から市が提供するWi-Fiについては誰が使用したかを把握する必要があり、他市町も同様の接続方法であるとのことであった。

最初の登録は難しいものの、一度登録すれば全公民館で使用できるほか、公民館職員も随時サポートするよう指導している。

### (3) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

舞鶴市立図書館からの視察受け入れを12月4日に中央図書館で実施した。舞鶴市は人口7万9千人と、本市と同規模の自治体であり、令和9年度に新しく中央図書館を設置される中での視察であった。視察者は、舞鶴市立西図書館の館長及び司書並びに舞鶴市立東図書館の司書及び事務職員の計4人であった。

視察の目的は、三木市の貸出しが全国ランキングで常に上位である理由について、分館との本の配送や業務分担の役割について、図書館ボランティアについてなどであった。舞鶴市の館長からは、職員一人一人から図書館をもっと利用してもらおうという意気込みが伝わってきた、実りある視察であったと感謝された。

クリスマスおはなし会&工作を12月7日に中央図書館で、12月14日に青山図書館で開催し、参加者は中央図書館が40人、青山図書館が37人であった。

4ステップで誰でもかわいく描けるペットイラストワークショップを12月8日に開催し、参加者は19人であった。吉川町出身のペットイラストレーターsakio氏を講師に、参加者は少しでも上手にかわいいペットを書こうと真剣に取り組んでいた。出来上がったイラストはどの作品も愛情たっぷりであった。

すすすくのクリスマスおはなし会を12月15日に吉川図書館で開催し、参加者は19人であった。

新春企画として、三木染形紙デザインの読書手帳の配布、「本み

くじ」及び「おたのしみ袋2025」の貸出しを1月4日から順次各館で開催する。

#### (4) 文化・スポーツ課報告事項

○手島文化・スポーツ課長が次のように報告した。

芸術講座「書道教室～身近に「書」を楽しむ～」を11月2日、9日、16日及び23日に開催した。全ての日程に参加できる人を対象にしており、参加者は7人であった。

芸術講座「鉛筆画教室～モノクロの世界を学ぶ～」を11月10日、17日、24日及び12月1日に開催し、参加者は延べ71人であった。

11月中に開催した少年スポーツ大会の競技の参加者は263人であった。男子サッカー及びバスケットボールについては1月に開催する。

美術館協議会を12月18日にみき歴史資料館で開催し、出席者は6人であった。

発掘調査現地説明会を12月7日に開催し、参加者は41人であった。

神姫トラストホープ株式会社及び株式会社エスエスケイが主催し、三木市スポーツ振興基金及び三木山総合公園の指定管理者である神姫SFMパートナーズが共催するジュニアベースボール教室を12月15日に開催し、参加者は60人であった。講師は阪神タイガースの梅野選手及び西選手であった。

地域クラブ展開に関する説明会を12月17日に開催し、参加者は122人であった。

第32回三木市アンサンブルコンサートを1月13日に文化会館で開催する。出演予定団体は、中学校5校、高校1校及び一般4団体である。

企画展「井関春龍／市山田（片寄）知～書とアートの融合～」を1月11日から2月2日まで堀光美術館で開催し、会期中の1月19日に井関春龍氏による書道パフォーマンスを開催する。

#### (5) 学校教育課報告事項

○山口学校教育課長が次のように報告した。

第9回定例校園長会を11月29日に開催した。学校部活動から

地域クラブへの展開に関係する内容について連絡するとともに、地域クラブに関するアンケートの主な調査結果について校園長に説明した。

このアンケートは、地域クラブ活動に関する児童生徒及び保護者の考えを把握し、今後の地域クラブ展開に役立てることを目的として実施した。調査結果については、記者発表及び総務文教常任委員会において報告するとともに、地域クラブ展開に関する説明会において説明した。教育委員は全員同説明会に参加されていたが、改めて報告する。

児童生徒の大体65%から75%が地域クラブへの参加を希望しており、学校や学校近くの施設で活動できることが参加の重要条件として挙げられた。

参加種目については、小学生はバスケットボール、中学生はソフトテニスの人気が高かったが、多岐にわたる種目について希望があった。

活動日数については、小学生は週2日から3日まで、中学生は週3日から5日までの希望が多かった。

活動の目的は、楽しんで活動したい、技術を身に付けたい、勝利や賞を目指したいと、分散した結果となった。指導者は多様なニーズに応じた指導が求められている。

保護者アンケート結果では、懸念事項として、活動場所への送迎及び金銭的な負担が課題として挙げられた。

調査結果を踏まえ、今後、検討が必要なことを4点挙げる。

1点目は、地域クラブへの参加希望者が多いことから、アクセスしやすい活動場所の確保が必要であること。

2点目は、幅広い種目に対応できる地域クラブを設立する必要があること。

3点目は、児童生徒のニーズが多様であるため、柔軟な活動日数を検討する必要があること。

最後に、多様な目的に対応可能な指導を促進するため、運営者側への研修及び情報提供を行う必要があること。

これらについて伝えた。

(石井委員) 先日の「三木市における地域クラブ展開に関する説明会」は、全体的には非常に丁寧な説明であったものの、冒頭の地域クラ

ブとは何かということをもっと丁寧に説明すべきであったと感じた。

学校教育の一環であった部活動が社会教育活動になることから、社会教育とは何かということをも皆で共有してから始めたほうがよかったのではないか。社会教育とは、老若男女が集まり、世代を超えてスポーツや文化を楽しむことが一番の目的と理解している。今回の地域クラブ展開に関しては、その「楽しむ」に加えて、例えば、競技であれば技術の向上、大会で上位を目指すなどのさまざまなニーズに応える意味でも、説明会の参加者が聞きたいことや必要としている情報を把握するためにも、最初に「社会教育活動になる」というところを頭に置いてから、説明したほうがよかったと考える。

同説明会では理解が進んでいない中でさまざまな質問が出た。その中で、費用面や指導者として手を挙げようとする人の質問を聞いたが、私は地域クラブを習い事として捉えている。習い事はそもそも保護者負担であり、子どもたちが例えば塾、そろばん又はピアノに通うのと同様に、材料費及び送迎に関して全て受益者負担になっており、指導者の報酬も月謝に含まれている。金額的には、地域クラブに関しては続けていけるように安価に設定されるべきと考えており、あまりに高くなるようであれば補助金等で支援する必要があると考える。

ニーズについては、アクセスしやすいところが何より大切という説明があり、全く同意見である。今後の国・県の動向が分からない中ではあるが、電車やバスを使わなければ地域クラブに参加できないとなると、検討課題になる。

指導者の確保に関しては、地域クラブ活動を持続可能なものにしていくためには指導者の報酬を考えていかなければならないとは認識しているが、同説明会で元教員及び現役教員から時給について質問があった。

具体的な金額についても発言があったが、既存の、例えば、スポーツクラブ21などの指導者はボランティアで指導している人も多く、時給設定の基準が問題となるため、月謝の中から指導者の報酬を工面する形がよいと考える。

(手島文化・スポーツ課長) 冒頭の説明を簡潔にしすぎたと反省している。今後は丁寧な説明を心掛ける。指導者の報酬については、現時点では説明できる状況にないが、何か支援ができないか検討する。

(山口学校教育課長) 学校部活動は、学校の教育課程外の教育活動として、教員が長期にわたり担ってきた。それが社会教育となるものの、部活動が地域クラブになるというイメージが既にできているため、なかなか地域クラブについて想像するのが難しいと考える。このため、社会教育に変わることをしっかり説明する必要があると感じた。

逆に言うと、部活動では今まであまり費用がかからなかったが、今後は費用負担が生じるというイメージになるため、石井委員が御指摘のとおり習い事として捉えると、費用負担について理解が得やすいと考える。

支援の在り方については、今後しっかりと検討する。

(石井委員) 新たに地域クラブを立ち上げるに当たり、大きな懸念となるのは、本当に生徒が集まるのか、また、学校で保有する道具及び学校施設を利用できるのかということである。

保護者にとっては公民館が使いやすいのではないかと考えるが、子どもたちが最も親しみがあり、通いやすいのは学校である。道具や施設の利用について、事務局の回答は前向きな内容であったが、ぜひ地域クラブに学校施設や道具を提供し、スムーズに進められるようにしていただきたい。

(稲見委員) 地域クラブになると、種目が増え、選択できるクラブの幅が広がるという大きな夢を持った生徒の思いをくじかないようにしなければならない。また、今後、教育委員会は指導者を地域クラブに派遣するのか、または、地域クラブを設立するのかについてしっかり説明する必要がある。地域クラブは組織を立ち上げる必要があるのか、個人教室でもよいのか。個人教室が乱立した場合、生徒の取り合いになりかねず、バランスが大変難しいと感じる。

三木市には各地域にスポーツクラブ21があり、市民からすれば、スポーツクラブ21が地域クラブという認識の人もいるであろう。それが正しいかどうかはともかく、市民を勘違いさせないような説明が重要になると説明会で感じた。

スポーツクラブ21という十分に機能している組織にとってみると、スポーツクラブ21に加盟していれば生徒を受け入れなければならないのかという思いが出てきているようである。今から3か月

間で運営方針を作成すると思うが、関係者から意見を聴き、課題を集約することも必要と考える。

(手島文化・スポーツ課長) 運営方針については、現在、事務局案を作成しているところである。今後、これまでに出了された多くの質問を運営方針に反映できるか検討し、ブラッシュアップする。関係者への意見聴取については、相手先や手法について地域クラブ担当者会議で検討したい。

(大北教育長) さまざまな立場の人から聞き取りし、運営方針を作成されたい。

(西岡委員) 「三木市における地域クラブ展開に関する説明会」に参加してまず感じたことは、非常に多くのかたが子どもたちを指導し、または、地域クラブを設立しようとしているということである。

同説明会ではさまざまな意見が出たが、三木市における地域クラブ展開について詳細が決まっていないため、それらの意見については今後検討が必要な内容であると考ええる。

吉川は部活動の種類が少なく、入りたい部活がなかったり、仕方なく入部したりすることもある。そのような状況の中で、地域クラブ展開によって子どもたちにさまざまな選択肢ができることは非常によいことである。そのためには、指導又はクラブの設立を考えている人が感じる懸案を、補助金又はサポートなどにより払拭してあげたらよいと感じた。

(手島文化・スポーツ課長) 補助金については、当初予算の査定中であり軽々に発言することはできないが、何らかの立ち上げ支援については教育委員会で行いたいと考えている。

(梶委員) 準備が十分できていないところもあるものの、三木市における地域クラブ活動について、まずはスタートを切ったことは率直によかったと考える。

説明会での説明及び質問への回答では、「子どもたちにとって課外活動は大切である」という一貫した想いを感じた。これは、我々大人が育った経験や、中学生のアンケート結果でも共通する内容で

ある。課外活動が子どもたちの成長にしっかりと生きており、そのような大切なものを皆さんと一緒につくっていききたいというメッセージは、これからも発信し続けることが大切であると感じた。

説明会に参加した人の中で質問していない人もいたが、それぞれが思っている地域クラブの在り方はバラバラであると思う。事務局からの説明では、成果及び高度な技術を求めるクラブ、人の輪を求めるようなクラブなど、さまざまなクラブがあってよいということであったが、分かっていない人が多いという印象である。このため、イメージしやすい形で資料などを示したり、分かりやすく説明したりする必要があるであろう。活動の在り方で費用が変わってくるため、費用等についても活動内容と絡めて説明したほうがイメージしやすいと考える。

(山口学校教育課長) 地域クラブについて、具体例を出しながら、保護者若しくは子どもを対象とした動画の発信又は運営者向けの説明会を通じて分かりやすく伝えていきたい。

(石井委員) コーディネーターに関する質問が非常に多かった。相談先がどこになるのか混乱すると思われるため、コーディネーターの業務内容を運営方針に明記するなど、はっきりさせる必要がある。

もう一点思いを述べたい。これまでの部活動であれば、勉強又は友達関係で悩んだときでも頑張れるということがあった。

地域クラブになり、活動場所が学校から離れることにより、他の校区の友達とも出会え、世代を超えてさまざまな人と交流できることにより、そこが一つの居場所になることが大きいと感じる。指導者への説明会では、そのような趣旨も含めて説明していただきたい。

(大北教育長) これからさまざまな人向けの説明会を幾度となくしていくこととなる。一つクラブが立ち上がれば、紹介し具体的にイメージもしやすくなる。本日委員から出された意見を参考に、事務局で検討していく。

#### (6) 教育センター報告事項

○計倉教育センター所長が次のように報告した。

みっきいルームの正式通級児童生徒は、中学生6人、小学生9人

の計15人で、小学生が1人増加した。うち小学生3人が部分登校につながっている。

みっきいルーム体験活動を12月6日に小野市の陶芸体験施設及びひまわりの丘公園で行い、参加者は10人であった。陶芸体験施設ではそれぞれが皿を作った。

第30回三木市CGアートコンテスト表彰式を12月14日に教育センターで開催した。250点の応募の中からグランプリ賞をはじめとする42点の入賞作品を表彰した。作品については、現在みっきいホールに展示している。

CGアートコンテストについては、当初はデジタルアートの可能性を広げるとともに、作品の場を提供することにより、主に子どもたちの才能を伸ばすことを目的に30年前にスタートした。30年が経過し、当初の目的が達成されたことや、生成AIによる作品を審査で峻別することが困難となっていることから、令和7年度以降のコンテストの手法について、今後検討する。

青少年センターの実施した事業について報告する。

ネット見守り隊報告を11月27日に実施したが、特に大きな事案はなかった。当該報告は、児童生徒の写真がSNSに掲載されているなどの個別の案件のほか、都市部で起こっている事案で、今後本市にも波及するような事案もある。今後は、本市に波及するような事案の報告があれば、学校にも共有する。

#### (7) 小中一貫教育推進室報告事項

○武内小中一貫教育推進室長が次のように報告した。

先進校視察を12月4日に愛知県春日井市立鳥居松小学校で実施した。同市は、教育課程特例校制度を活用し、市内全小学校に書道科を導入している。指導補助員を市内で30人程度確保し、年間で35時間、系統的な指導を展開しており、字を書くという具体的な活動を通し、友達とふれ合ったり家庭生活に話題をもたらしたりすることで、集団の中でも自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、書の町に生きるよさと愛着を持たせることをねらいとしていた。

コミュニティ・スクール研修会は、令和7年度に導入予定の三木中学校、三木東中学校及び三木特別支援学校の委員候補者を対象に実施した。学校運営協議会の委員としての役割や具体的な熟議の進

め方について、研修者自身が参加するワークショップ形式で研修を深めることができた。

(8) 教育・保育課報告事項

○仲谷教育・保育課長が次のように報告した。

令和6年度アフタースクール冬休み入所児童募集を11月11日から11月29日まで実施し、申込者数は16人であった。冬休みは入所日数が短いため、例年、申込者数は少ない状況である。

保育者研修（実践交流研修）を11月25日に教育センターで実施し、参加者は31人であった。小学校に入学後、適応できない子どもが全国的に増加しており、文部科学省も幼児期から小学校の接続の充実を図ることが重要との立場である。このため、令和7年度以降に「幼・保・小の架け橋カリキュラム」を作成する。その前段として、当該研修では、就学前施設の5歳児の担任を対象に、学校教育課の林指導主事を講師として本市が目指している小学校教育について説明した。

参加者は、授業の手法やタブレットの活用など、自身が小学校のときとはかなり変わっているとの認識であった。

今回は、小学校の教員及び就学前の教員を対象に、幼児教育と小学校教育がつながるとはどういうことかをテーマに1月20日に研修を行い、令和7年度から令和8年度までの2か年で「幼・保・小の架け橋カリキュラム」を作成する。

日程第11 その他 なし

日程第12 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和7年1月17日午後2時から開催することを決定した。

\*\*\*\*\*

(非公開)

日程第4 協議事項17 三木市教育委員会奨学金制度の見直し及び三木

市教育委員会奨学規則の改正の概要について

日程第5 協議事項18 令和7年度の予算編成に係る教育予算について

協議事項17及び18は、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により非公開で審議したため、同規則第31条の規定により内容については記載しない。

\*\*\*\*\*

閉 会

教育長が、令和6年12月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和6年12月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

---

署名委員

---

署名委員

---

記録者

---